

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

<h3>柔道・なぎなた</h3> <p>複数武道授業を実施することで、武道のもつ伝統的な考え方や行動の仕方をより深く学ぶ授業を展開する。</p>	<p>枕崎市立桜山中学校（鹿児島県）</p> <p>電話番号 0993-72-0304</p> <p>メールアドレス saku_chu@po12.synapse.ne.jp</p>
--	--

●実践研究のねらい

- 柔道・なぎなたに共通する礼法や伝統的な考え方、行動の仕方を理解する。
- 柔道となぎなたの基本動作や基本となる技を学び、それぞれの武道の特性を理解させながら、武道に関連する体力を高める。
- 複数武道授業を体験することにより、枕崎で開催される2020年かごしま国体なぎなた競技についての興味・関心を高める。

●複数種目指導モデル 第1・2学年（1年25名，2年26名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目		柔道				なぎなた		柔道		
学習の流れ	オリエンテーション (柔道・なぎなた)	準備運動 導入	準備運動，導入，基本動作と受け身の練習			準備運動・導入		準備運動，導入，基本動作と受け身の練習		
		受け身について	礼法・道着の着方	固め技	投げ技	基本動作・構えの礼法について	打突と受け	投げ技	まとめ	

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- オリエンテーションでDVDを活用し、それぞれの武道の特徴をつかませる。
- 限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう指導内容の精選を図る。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 学ぶ場の安全確認，生徒の当日の体調把握を確実に行う。
- 外部指導者と安全な指導のあり方について，事前に共通理解を図る。

●授業の様子



【視聴覚機器の効果的な活用】

それぞれの武道の特性を効果的に学ぶため、オリエンテーションや技の確認の際に、DVDを活用した。



【外部講師の活用】

基本となる打突の習得のために、派遣講師が専門的な知識をもとに、生徒にとって分かりやすい指導を行った。

●生徒の意識、感想、変容など

【生徒の感想から】

- なぎなたには興味がなかったけれど、今回の授業を受けてやってみたいと思った。
- いろいろな礼法に興味をもった。武道を続けたら、礼法が身につくと思った。
- 最初は難しいだろうなと思ったけれど、慣れてくると意外とできていた。技が決まると気持ちいいだろうなと思った。

【授業後のアンケートから】

- | | | |
|------------------------|-------------|-----|
| ○ 礼法を身につけることができたか。 | そう思う、ややそう思う | 98% |
| ○ 技能を高めることができたか。 | そう思う、ややそう思う | 92% |
| ○ なぎなたに興味をこれまで以上にもてたか。 | そう思う、ややそう思う | 94% |

●成果と課題

- 最初に柔道で礼法を学習済みだったので、なぎなたの「左座右起」などの礼法の習得もスムーズであった。
- 複数武道種目の共通点・相違点を考えながら、意欲的に学習することができた。
- 外部講師から、専門的な知識と技能を学ぶことができた。
- なぎなたについては、今後も外部からの協力を得なければ継続していくことが難しい。
- 保健体育教諭が、T2として専門外の武道にどのようにかかわっていけばよいのか、今後も検討していく必要がある。

